

ことから、リスク軽減両側卵管卵巣摘出術（RRBSO）を受ける女性に対しては、卵管を可能な限り摘出し、卵巣で実施されるような step-sectioning を実施することが奨励される。

FTCA および卵巣癌に共通する一連の環境および遺伝子リスク因子があると思われることから、初回外科的切除と debulking または staging、プラチナ（およびタキサン）ベース補助化学療法、ならびにサーベイランスプロトコル（CA-125 を含む）などの、この2つの新生物に対する臨床的アプローチが類似していても驚くにはあたらない。これらの特徴ならびに卵巣、卵管および腹膜の主な本質を区別する正確な診断基準についての合意が得られていないことを踏まえて、この疾患範囲内で FTCA を検討するのが適切と思われる。

2.14 女性およびマイノリティーの組み入れ

Gynecologic Oncology Group および GOG の参加施設は、被験者になる可能性のある患者の本試験またはいかなる試験への参加も、民族または社会経済的背景のみを基にして拒むことはない。参加施設で治療される、卵巣癌、卵管癌および原発性腹膜癌の全集団を代表する患者集団を対象に、適格規準を満たすすべての患者を本プロトコルに登録し、その研究目的に取り組むために最大限の努力を払う。

3.0 患者の適格規準と除外規準

3.1 適格規準

3.10 8/28/2011 以降に登録する患者は、腫瘍減量手術の候補であり、外科治療をランダム化割付によって決定されることについて同意していなければならない。(08/29/11) (12/19/11)

3.11 患者は、現在再発している上皮性卵巣癌、原発性腹膜癌もしくは卵管癌の組織学的診断を受けていなければならない。

3.12 組織学的に、以下の上皮細胞型の患者が適格である。漿液性腺癌、類内膜腺癌、粘液性腺癌、未分化癌、明細胞腺癌、混合型上皮性悪性腫瘍、移行上皮癌、悪性ブレンナー腫瘍、またはその他の特定されていない腺癌 (N.O.S.)。

3.13 患者は、初回のプラチナ-タキサン療法 (3 サイクル以上) に対して完全奏効を示していなければならない。(08/04/08)

3.131 初回化学療法に対する完全奏効には以下の所見が含まれていなければならない：身体所見 (Physical Exam) 異常なし、内診異常なし、ベースラインで上昇していた場合は、CA125 の正常化。必要条件ではないが、初回療法 (3.133 で定義) 完了後に行われたいかなる X 線評価 (例：CT、MRI、PET/CT など) においても、陰性とみなされる必要がある。

3.132 すべての患者は、初回化学療法 (プラチナおよびタキサン両製剤) 完了後 6 カ月以上、進行の臨床的証拠がない無治療期間を経ていなくてはならない。初回療法に生物学的薬剤 (ベバシズマブ) が含まれていてもよい。

3.133 初回治療には、臨床的または病理学的完全奏効の後に維持療法が含まれることがある。しかしながら、殺細胞性化学療法による維持療法は、再発病変が立証される前の最低 6 カ月間は中断されていなければならない。生物学的薬剤による治療またはホルモン療法で維持療法を受けている患者は、初回殺細胞性化学療法完了後 6 カ月以上経過して再発が立証され、かつ、生物学的療法の最終投与から 4 週間以上経過していれば、適格である。(06/22/09)

3.14 患者は、この試験の目的のために臨床的に明らかな再発病変を有していなければならない。(08/29/11)

3.142 測定可能病変 (RECIST) は、少なくとも一次元で正確に測定できる (最長径が記録される) 1 つ以上の病変と定義される。各病変は、従来の検査法、MRI または CT で測定する場合は 20 mm 以上、ヘリカル CT で測定する場合は 10 mm 以上でなければならない。

3.15 必要な検査所見：

3.151 骨髄機能：好中球数 (ANC) は $1,500/\text{mm}^3$ 以上 (Common Toxicity Criteria for Adverse Events v3.0 (CTCAE) Grade 1 に相当)。

3.152 血小板数： $100,000/\text{mm}^3$ 以上 (CTCAE Grade 0-1)。

3.153 腎機能：クレアチニン値 (non-IDMS) 基準値上限の 1.5 倍以下 (CTCAE Grade 1) (03/15/10) (08/23/10)

3.154 肝機能：

3.1541 総ビリルビンは基準値上限の 1.5 倍以下 (CTCAE Grade 1)。

3.1542 SGOT/AST およびアルカリフォスファターゼは、肝転移がない場合は基準値上限の 2.5 倍以下、肝転移がある場合は基準値上限の 5.0 倍未満。

3.155 この適格規準は 8/29/2011 より前に登録された患者と、この日付以降に登録されベバシズマ

ブの投与を選択した患者のみに適用される。(10/01/12)

患者の尿タンパク-クレアチニン比 (UPCR) は、1.0 mg/dL 未満でなければならない。UPCR は 24 時間畜尿のタンパク排泄量と直接相関している。具体的には、UPCR 1.0 は 24 時間畜尿でタンパク 1.0g に相当する。無菌容器に随時尿を 4mL 以上採取する (24 時間畜尿でなくてもよい)。尿タンパクおよびクレアチニンレベルを測定するために検査室へ送る [個々に依頼する]。検査室はタンパク濃度 (mg/dL) およびクレアチニン濃度 (mg/dL) を測定する。UPCR は次の関係から求められる: タンパク濃度 (mg/dL) / クレアチニン濃度 (mg/dL)。

- 3.16 (この適格規準は 8/28/2011 以降の登録患者には適用されない。)(08/29/11) (12/19/11) 腫瘍減量手術の候補でない患者は、化学療法へのランダム化割付に適格である。試験担当医師の判断で完全な腫瘍減量が不可能な場合または病弱のため検査および debulking が不可能な場合、患者は腫瘍減量手術の候補とはみなされない。
- 3.17 患者は、Section 7.0 で規定される登録前の必要条件を満たしていなければならない。
- 3.18 患者は、承認されたインフォームドコンセントおよび個人の健康情報の公開許諾についての同意書に署名していなければならない。
- 3.19 患者の GOG パフォーマンスステータスは、0、1、または 2 でなければならない。
- 3.110 患者は、18 歳以上でなければならない。

3.2 除外規準

- 3.21 前化学療法を 2 レジメン以上受けている患者 (維持療法はカウントしない)。
- 3.22 併用免疫療法または放射線療法を受けている患者。
- 3.23 腹腔または骨盤への放射線療法の既往がある患者。
- 3.24 再発病変に対し既に二次的腫瘍減量手術を行っている患者は除外される。(08/29/11)
- 3.25 過去に境界悪性 (低悪性度) 上皮性癌 (Grade 0) の組織学的診断を受けて外科的に切除し、その後それとは関係なく新たに浸潤性上皮性卵巣癌または原発性腹膜癌を発症した患者は、Section 3.12 に記載した基準を満たしていれば、適格である。
- 3.26 水分および栄養分の非経口投与を必要とし、部分的腸閉塞または腸穿孔の証拠を有する患者。
- 3.27 腹部または骨盤内の腫瘍 (卵巣癌、卵管癌、および原発性腹膜癌以外) に対する化学療法の既往がある患者。(06/22/09) (03/15/10)
- 3.28 原発性子宮体癌の同時重複または既往がある患者。ただし、以下の条件をすべて満たす場合にはその限りではない: 病期は IB 期以下: 筋層浸潤が浅層にとどまり、脈管もしくはリンパ管侵襲がない; 乳頭状漿液性、明細胞性またはその他の FIGO Grade 3 の病変などの低分化型型ではない。
- 3.29 コントロール不良の感染症を有する患者。
- 3.30 本試験の順守を大幅に制限するか、患者に重度のリスクまたは生存率の低下をもたらすと思われる、悪性腫瘍に関係のない重度の内科疾患を併発している患者。
- 3.31 Grade 2 以上の末梢神経障害がある患者。

3.32 カルボプラチンおよび／またはパクリタキセルもしくは化学的に類似する化合物にアレルギー反応の既往のある患者。ただし、これらの化学療法剤にアレルギー（過敏）反応がある患者が脱感作プログラムまたはプロトコル後の再治療に成功した場合は、除外しない。

3.33 この適格規準は 8/29/2011 より前に登録された患者と、この日付以降に登録されベバシズマブの投与を選択した患者のみに適用される。(10/01/12)

チャイニーズハムスター卵巣細胞の産物またはその他の組換えヒト抗体またはヒト化抗体に対して過敏症であることが判明している患者。

3.34 妊娠の可能性があり適切な避妊を行っていない患者、妊婦または授乳婦は本試験に不適格である。これまで、動物またはヒトの胎児に関する研究は行われたことがなく、胎児に害を及ぼす可能性がある。ベバシズマブは発生中の血管新生の形成に関与する VEGF を特異的に阻害し、抗体が胎盤を通過する可能性がある。したがって、ベバシズマブを妊婦に投与すべきではない。また、妊婦に対する化学療法剤投与に関しては、まだ判明していない即時のおよび長期的な影響がある。加えて、妊娠中にランダム化で割り付けられた外科的検査は、切迫した致命的な結果をもたらす可能性がある。さらに、ベバシズマブのヒト乳汁への排泄については明らかにされていない。多くの薬剤はヒト乳汁へ排泄されることから、ベバシズマブを授乳婦に投与すべきではない。患者に対しては、発育中の胎児に対する多大なリスクの可能性について通知する。

3.35 非メラノーマ皮膚癌を除くその他の浸潤性悪性腫瘍があり、過去 5 年以内にその他の癌の存在を示す証拠があった（もしくはある）、または以前の癌の治療が本プロトコルの治療に禁忌である患者。

3.36 この適格規準は 8/29/2011 より前に登録された患者と、この日付以降に登録されベバシズマブの投与を選択した患者のみに適用される。(10/01/12)

活動性の出血があるか、または出血障害、血液凝固異常もしくは大血管浸潤を伴う腫瘍など出血のリスクが高い病理学的条件を有する患者。

3.37 この適格規準は 8/29/2011 より前に登録された患者と、この日付以降に登録されベバシズマブの投与を選択した患者のみに適用される。(10/01/12)

本試験の治療初日より 5 年以内に、原発性脳腫瘍、標準的な薬物療法ではコントロール不可能な痙攣、脳転移、もしくは脳卒中の既往を含む中枢神経障害の既往または身体所見 (Physical Exam) での証拠がある患者。

3.38 この適格規準は 8/29/2011 より前に登録された患者と、この日付以降に登録されベバシズマブの投与を選択した患者のみに適用される。(10/01/12)

以下のような臨床的に重大な心血管疾患がある患者。

3.381 重大な心臓伝導障害がある患者、すなわち PR 間隔が 0.24 秒を超える、または 2 度もしくは 3 度の房室ブロックが認められる。

3.382 収縮期に 150mm Hg を超えるまたは拡張期に 90mm Hg を超える、コントロール不良の高血圧。

3.383 登録前 6 カ月未満の心筋梗塞、不整脈もしくは不安定狭心症。

3.384 New York Heart Association (NYHA) Grade 2 以上のうっ血性心不全。

- 3.385 投薬治療を必要とする重篤な不整脈。
- 3.386 Grade 2 以上の末梢血管疾患（ただし、外科的処置が不要で、かつ永久的な障害が残っていない、持続時間が 24 時間未満の虚血症状は除く）。(03/15/10)
- 3.387 6 カ月以内の脳血管障害（CVA）の既往。
- 3.39 この適格規準は 8/29/2011 より前に登録された患者と、この日付以降に登録されベバシズマブの投与を選択した患者のみに適用される。(10/01/12)

本試験の治療開始日前 28 日以内に大きな外科的処置、切開生検、抜歯もしくはその他の開放創をもたらす歯科的手術／処置、または重大な外傷を受けていたか、または本試験の期間中に大きな外科的処置の必要性が見込まれている患者。本試験の治療開始日前 7 日以内に血管内留置針もしくは生検が行われていた患者。

- 3.391 治療前の二次的腫瘍減量手術を行う患者は 2 サイクル目でベバシズマブの投与を受ける (Section 5.234 参照)。
- 3.392 腫瘍減量以外の目的で治療前に手術を受ける患者も、Section 3.1 の適格規準を満たしていれば、参加することができる。ベバシズマブを含む群にランダム化割付された患者については、その手術からプロトコル治療開始までに最低 28 日経過していなければならない。合併症なくポート設置の手術を受けた患者は、プロトコル治療開始までに最低でも 7 日経過していなければならない。(03/15/10)

4.0 試験のモダリティ

4.1 カルボプラチン (パラプラチン[®]、NSC #241240)

4.11 製剤組成：カルボプラチンは滅菌済みの凍結乾燥粉末として供給されており、カルボプラチン 50 mg、150 mg および 450 mg 入りの投与 1 回分の点滴静注用バイアルが入手可能である。各バイアルには、カルボプラチンおよびマンニトールが重量にして等量入っている。

4.12 溶液の調製：各バイアルの中身は、以下の一覧表に従って、使用直前に USP 注射用滅菌水、5%ブドウ糖液または注射用 USP 0.9%塩化ナトリウム溶液に溶解すること。

<u>バイアル中力価</u>	<u>希釈容量</u>
50 mg	5 ml
150 mg	15 ml
450 mg	45 ml

これらの希釈溶液は、いずれもカルボプラチン濃度 10 mg/mL になる。

注意：アルミニウムはカルボプラチンと反応し、沈殿物が生成して力価が低下する。このため、薬剤と接触する可能性があるアルミニウム部品を含む注射針または静注セットは、カルボプラチンの調製または投与に用いてはならない。

4.13 保管：カルボプラチンの未開封バイアルは、調整室温下で遮光保存した場合、包装に記載された有効期間中は安定である。

4.14 安定性：指示通りに調製した場合、カルボプラチン溶液は室温で 8 時間安定である。製剤には抗菌防腐剤が含まれていないため、カルボプラチン溶液は希釈した 8 時間後に廃棄することが推奨される。

4.15 供給元：ブリストル・マイヤーズ・スクイブ社が販売。

4.16 投与：Section 5.2 参照

4.17 有害反応：

血液：骨髄抑制

消化管：悪心、嘔吐、下痢、腹痛、便秘

神経：末梢神経障害、聴器毒性、視覚障害、味覚変化、中枢神経系症状

腎：腎機能検査値異常（血清クレアチニン、血中尿素窒素、クレアチニンクリアランスなど）

肝：肝機能検査異常（ビリルビン、SGOT、アルカリフォスファターゼなど）

電解質の変動：ナトリウム、カリウム、カルシウムおよびマグネシウムについて報告された血清電解質の異常低値

アレルギー反応：皮疹、蕁麻疹、紅斑、掻痒症、稀に気管支痙攣および低血圧

注射部位の反応：発赤、腫脹、疼痛、血管外漏出による壊死が報告されている。

その他：疼痛、無力症、脱毛。心血管系、呼吸器系、泌尿器系および粘膜系副作用が患者の 6%以下で認められている。心血管系事象（心不全、塞栓、脳血管発作）は 1%未満の患者で致死性であったが、化学療法との関連は認められなかった。稀に、癌に関連する溶血性尿毒症症候群が報告されている。倦怠感、食欲不振および高血圧が市販後調査の一部で報告されている。

*カルボプラチンに関する有害事象の総合リストは、FDA 承認の添付文書を参照。

4.2 パクリタキセル (タキソール[®]、NSC #673089)

4.21 製剤組成：パクリタキセルは、太平洋イチイ (*Taxus brevifolia*) から抽出した難溶性の植物由来産物である。溶解性を向上させるため混合溶媒系で溶解し、さらに 0.9%塩化ナトリウム水溶液または 5%ブドウ糖液で希釈する。

パクリタキセルは、ポリオキシエチレンヒマシ油 (クレモホール EL) 50%および USP 無水

アルコール 50%に溶解した 6 mg/mL の 5 mL バイアル (30 mg/バイアル) の滅菌濃縮液として供給される。バイアルの中身は臨床使用の直前に希釈すること。100 mg および 300 mg のバイアルも販売されている。

4.22 溶液の調製: パクリタキセルは適切な用量を USP 0.9%塩化ナトリウム注射液または USP 5%ブドウ糖注射液 (D5W) 500~1000 mL で希釈する (パクリタキセル単剤で使用の際は 500 mL が適当である)。パクリタキセルの可溶化の溶媒であるクレモホルルによってポリ塩化ビニル (PVC) の輸液バッグおよび静脈チューブから可塑剤のフタル酸ジエチルヘキシル (DEHP) が浸出するため、パクリタキセルはガラスまたはポリオレフィンの容器で調製する。

注意: パクリタキセルの調製後には、溶液中にわずかな繊維生成 (USP Particulate Matter Test for LVPs によって確立された許容範囲内) がみられている。このため、パクリタキセル溶液の投与ではインラインフィルターが必要である。インラインフィルターは、孔径 0.22 ミクロン以下の親水性の微小孔フィルター (例: IVEX-II、IVEX-HP またはその同等品) を薬液注入ポンプから遠位の静脈内輸液通路に取り付けて行うこととする。粒子生成は薬剤の力価低下を意味するものではないが、粒子状物質の生成が過剰に認められる溶液を用いてはならない。

4.23 保管: 未開封のバイアルは温度 2~25°C (36~77°F) の範囲内で保管可能である。

4.24 安定性: 市販のパクリタキセルには有効期限を記載したラベルが貼付されている。パクリタキセルは、上記の通り調製した場合でも、すべての溶液が薬剤濃度および調製後の経過時間と直接的に比例してわずかな混濁を呈するが、溶液 (0.3~1.2 mg/mL) は物理的および化学的に 27 時間安定である。

4.25 供給元: ブリストル・マイヤーズ・スクイブ社が販売。

4.26 投与: パクリタキセルは適切な用量および希釈濃度で 3 時間連続の点滴静注にて投与する。パクリタキセルは、静注用ニトログリセリンに用いる静注セット (ポリエチレンまたはポリオレフィン) のような PVC フリーのチューブおよびコネクタを使用した点滴制御装置 (ポンプ) により投与する。パクリタキセルを投与するラインからは、他のものは一切投与してはならない。Section 5.2 を参照のこと。

4.27 有害反応: 血液: 骨髄抑制

消化管: 悪心および嘔吐、下痢、口内炎、粘膜炎、咽頭炎、盲腸炎、虚血性大腸炎、好中球減少性腸炎

心臓: 不整脈、心ブロック、心室性頻脈、心筋梗塞 (MI)、徐脈、心房性不整脈

肺: 肺臓炎

血圧: 低血圧、高血圧 (併用薬デキサメタゾンと関連する可能性あり)

神経: 味覚、末梢神経障害、痙攣、気分動揺、肝性脳症、脳症

皮膚: 浸潤: 紅斑、硬結、圧痛、稀に潰瘍、注射部位リコール反応、多形紅斑 (例: Stevens-Johnson 症候群、中毒性表皮壊死融解症)

アレルギー: アナフィラキシー様および蕁麻疹様反応 (急性)、顔面紅潮、発疹、掻痒症

肝: SGOT、SGPT、ビリルビン、アルカリフォスファターゼおよびトリグリセリド高値、肝不全、肝壊死

その他: 脱毛、疲労、関節痛、筋痛、ふらつき、ミオパシー、頭痛

その他、視覚: ちらつきの感覚、かすみ目、閃光性暗点

*パクリタキセルに関する有害事象の総合リストは、FDA 承認の添付文書を参照。

4.3 ベバシズマブ (NSC #704865, IND #113912)

すべての試験担当医師は本プロトコルのコピーを入手するとともに研究者用冊子 Investigator's Brochure (IB) も入手すること。IB は Pharmaceutical Management Branch, CTEP, DCTD, NCI で入

手するか、IB Coordinator へのメールまたは電話で入手可能(e-mail: ibcoordinator@mail.nih.gov, Tel: 301-496-5725)。

- 4.31 **概要**：ベバシズマブはヒト型抗 VEGF モノクローナル抗体（遺伝子組み換え）であり、93% はヒトの、7%はマウスのアミノ酸配列を含む。ヒト IgG 構造とマウス抗原結合補助部位からなる。ベバシズマブは血管内皮増殖因子(VEGF: vascular endothelial growth factor)がレセプターに結合するのを阻害し、血管新生を抑制する。
- 4.32 **供給方法**：ベバシズマブは透明～わずかに乳白色の非経口投与用無菌液として供給され“ベバシズマブ”は、400mg 毎(25mg/mL－16mL)ガラス瓶 1 バイアル中に、リン酸塩、トレハロース、ポリソルベート 20 と注射用滅菌水が含まれる (USP)。
- 4.33 **保管と安定性**：本剤は翌日配達のため、保冷剤を入れて輸送する。受け取り後は冷蔵庫内に保存 (2°C～8°C) し、使用直前まで冷内におくこと。凍結や振盪はしないこと。保管期間に関する研究は進行中である。研究者はロット番号が期限切れの場合、申し出る。バイアルは 1 回使用目的であり抗菌剤は含まれていないので、開封後 8 時間以内に廃棄すること。
- 4.34 **調製**：バイアルには防腐剤が含まれておらず、使用は 1 回限りとする。算出した用量を 0.9% 塩化ナトリウム注射液 100 mL に入れる。いったん 0.9% 塩化ナトリウム注射液で希釈したベバシズマブ溶液は 8 時間以内に投与すること。
- 4.35 **投与**：本剤は点滴静脈内注射で投与する。初回投与時には少なくとも 90 分かけて投与する。初回投与で副作用の発現がなければ、2 回目の投与は少なくとも 60 分を超えた時間をかけておこなう。2 回目の投与においても副作用の発現がなければ、それ以降の投与は最短 30 分を超えた時間をかけての投与とする。投与に関連する副作用が生じた場合、その後のすべての投与は、忍容性良好であったうちの最短の投与時間以上をかけておこなうこととする。

ベバシズマブを全量完全に投与するため、静脈点滴ラインを 0.9% 塩化ナトリウム注射液でフラッシュする。以下に、ベバシズマブ静脈点滴ラインのフラッシュについて推奨される方法 2 種類を記載する。

1. ベバシズマブの点滴が完了したら、同薬の点滴バッグに 0.9% 塩化ナトリウム注射液 50 mL を追加する。チューブに残っている液量と同量の液が投与されるまで点滴を継続する。
2. 空のベバシズマブ点滴バッグを 0.9% 塩化ナトリウム注射液の 50 mL 入りバッグと交換し、チューブに残っている液量と同量の液を点滴する。

注記：フラッシュの時間は推奨点滴時間の合計には含まれていない。

4.36 **ベバシズマブ(NSC#704865)に関する Comprehensive Adverse Events and Potential Risk List(CAEPR) (08/23/10) (12/19/11) (09/29/14)**

The Comprehensive Adverse Event and Potential Risk list (CAEPR) は、薬剤毎に、報告された・あるいは薬剤使用に関連する予期される有害事象 (AE)を、生体システムのカテゴリーに分類し一定の形式で示した表である。包括的な表に加えて、サブセットとして Specific Protocol Exceptions to Expedited Reporting (SPEER)が太文字・イタリック体で別カラムに示されている。これらの有害事象 (SPEER) のサブセットは NCI への急送報告対象外になるプロトコル固有の有害事象リストである。(以下の注意事項を除く)。より詳細な情報は ‘CTEP, NCI Guidelines : Adverse Event Reporting Requirements’

《http://ctep.cancer.gov/protocolDevelopment/electronic_applications/docs/aeguidelines.pdf》を参照。頻度は 3540 例に基づき得られたものである。以下にベバシズマブ (rhuMAb VEGF)の CAEPR を示す。

注意：SPEER に該当する事象は SPEER 欄の事象名隣の括弧内に示す Grade を超える場合のみ、急送報告すること。複数の Investigational agents を併用するプロトコルに記載されている CAEPR で、一つの有害事象が異なる SPEER にリストアップされている場合、その有害事象

を急送報告するか否かの決定に際しては、より低い Grade を用いる。

Version 2.3, August 1, 2013¹

ペバシズマブ (rhuMAb VEGF)と関連の可能性がある有害事象 (CTCAE 4.0 用語) [n=3540 例]			Specific Protocol Exceptions to Expedited Reporting (SPEER) (旧: ASAEL)
Likely (>20%)	Less Likely (≤20%)	Rare but Serious (3%)	
血液およびリンパ系障害			
	貧血		貧血 (Gr.3)
		血液およびリンパ系障害、 その他 (腎臓の血栓性微小 血管症)	
	発熱性好中球減少		発熱性好中球減少 (Gr.3)
心臓障害			
		急性冠動脈症候群 ²	
	心臓障害、その他 (上室性 不整脈) ³		心臓障害、その他 (上室性 不整脈) ³ (Gr.3)
		心不全	
		左室収縮機能障害	
		心筋梗塞 ²	
		心室性不整脈	
		心室細動	
胃腸障害			
	腹痛		腹痛 (Gr.3)
	大腸炎		大腸炎 (Gr.3)
	便秘		便秘 (Gr.3)
	下痢		下痢 (Gr.3)
	消化不良		消化不良 (Gr.2)
		胃腸管瘻 ⁴	
	胃腸管出血 ⁵		胃腸管出血 ⁵ (Gr.2)
	胃腸管閉塞 ⁶		
		胃腸管穿孔 ⁷	
		胃腸管潰瘍 ⁸	
	イレウス		
	口腔粘膜炎		口腔粘膜炎 (Gr.3)
	悪心		悪心 (Gr.3)
	嘔吐		嘔吐 (Gr.3)
全身障害および投与部位の状態			
	疲労		疲労 (Gr.3)
	注入に伴う反応		注入に伴う反応 (Gr.2)
	非心臓性胸痛		非心臓性胸痛 (Gr.3)
	疼痛		疼痛 (Gr.3)
免疫系障害			
	アレルギー反応		アレルギー反応 (Gr.2)
		アナフィラキシー	
感染症および寄生虫症			
	感染症 ⁹		感染症 ⁹ (Gr.3)
		感染症および寄生虫症、そ の他 (壊疽性筋膜炎)	

	感染症および寄生虫症、その他（直腸周囲膿瘍）		
傷害、中毒および処置合併症			
		傷害、中毒および処置合併症、その他（吻合部縫合不全） ¹⁰	
	創合併症		創合併症 (Gr.2)
	創し開		創し開 (Gr.2)
臨床検査			
	アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加		アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加 (Gr.3)
	アルカリフォスファターゼ増加		アルカリフォスファターゼ増加 (Gr.3)
	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加		アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加(Gr.3)
	血中ビリルビン増加		血中ビリルビン増加(Gr.2)
	心筋トロポニンT増加		
好中球数減少			好中球数減少(Gr.3)
	血小板数減少		血小板数減少 (Gr.4)
	体重減少		体重減少(Gr.3)
	白血球減少		白血球減少(Gr.3)
代謝および栄養障害			
	食欲不振		食欲不振(Gr.3)
	脱水		脱水 (Gr.3)
筋骨格系および結合組織障害			
	関節痛		関節痛(Gr.3)
	筋骨格系および結合組織障害、その他（骨端軟骨異形成） ¹¹		
	筋肉痛		筋肉痛(Gr.3)
	顎骨壊死 ¹²		
神経系障害			
	浮動性めまい		浮動性めまい(Gr.2)
	頭痛		頭痛(Gr.3)
		頭蓋内出血	
		脳血管虚血 ²	
	末梢性感覚ニューロパチー ¹³		
		可逆性後白質脳症症候群	
	失神		
腎および尿路障害			
		急性腎不全	
	血尿		血尿(Gr.3)
	蛋白尿		蛋白尿(Gr.2)
		腎および尿路障害、その他（ネフローゼ症候群）	
		尿瘻	
生殖系および乳房障害			
生殖系および乳房障害、その他（卵巣障			

害) ¹⁴			
		腫瘍	
	腔出血		腔出血(Gr.3)
呼吸器、胸郭および縦隔障害			
	アレルギー性鼻炎		アレルギー性鼻炎(Gr.3)
		気管支胸膜癒	
		気管支肺出血	
	咳嗽		咳嗽(Gr.3)
	呼吸困難		呼吸困難(Gr.2)
	鼻出血		鼻出血(Gr.3)
	嘔声		嘔声(Gr.3)
		呼吸器、胸郭および縦隔障害、その他（鼻中隔穿孔）	
		呼吸器、胸郭および縦隔障害、その他（気管食道癒）	
皮膚および皮下組織障害			
	掻痒症		掻痒症(Gr.2)
	斑状丘疹状皮疹		斑状丘疹状皮疹(Gr.2)
	蕁麻疹		蕁麻疹(Gr.2)
血管障害			
高血圧			高血圧(Gr.3)
	血栓塞栓症		血栓塞栓症(Gr.3)
		血管障害、その他（動脈血栓塞栓症） ^{2,15}	

¹ この表は、薬剤の有害事象記録に従い更新、改訂される。改訂度には、試験責任医師に最新版が配布される。最新版は PIO@CTEP.NCI.NIH.GOV への連絡により、入手可能である。電子メールに氏名、試験責任医師名、プロトコルおよび薬剤名を明記すること。

² 心虚血や中枢神経虚血などの動脈血栓症のリスクは糖尿病歴のある高齢患者において高くなる。

³ 上室性不整脈には、上室性頻拍症、心房細動および心房粗動を含む。

⁴ 胃腸管癒には、以下を含む：肛門癒、腸癒、十二指腸癒、食道癒、胃癒、胃腸管癒、直腸癒、および胃腸障害 SOC 下のその他の部位。

⁵ 胃腸管出血には、以下を含む：結腸出血、十二指腸出血、食道出血、食道静脈瘤出血、胃出血、痔出血、腹腔内出血、口腔内出血、直腸出血、および胃腸障害 SOC 下のその他の部位。

⁶ 胃腸管閉塞には、以下を含む：結腸閉塞、十二指腸閉塞、食道閉塞、回腸閉塞、空腸閉塞、直腸閉塞、小腸閉塞、および胃腸障害 SOC 下のその他の部位。

⁷ 胃腸管穿孔には、以下を含む：結腸穿孔、十二指腸穿孔、食道穿孔、胃穿孔、空腸穿孔、直腸穿孔、小腸穿孔、および胃腸障害 SOC 下のその他の部位。

⁸ 胃腸管潰瘍には、以下を含む：十二指腸潰瘍、食道潰瘍、胃潰瘍、および胃腸障害 SOC 下のその他の部位。

⁹ 感染症には、感染症および寄生虫症 SOC 下の 75 の感染症を含む。

¹⁰ 吻合部縫合不全には、胃吻合部漏出、胃腸吻合部漏出、大腸吻合部漏出、直腸吻合部漏出、小腸吻合部漏出、ウロストミー部漏出、膣吻合部漏出を含む。

¹¹ 骨端軟骨異形成は、骨端成長板が活動的な若い患者においてみられた。

¹² ベバシズマブ治療を受けたがん患者のうち顎骨壊死 (ONJ) が報告された症例のうち、多数がビスフォスフォネートの静脈投与を過去または併用療法として受けていた。

¹³ 化学療法単独群と比較した試験において、ベバシズマブと化学療法を併用した群において、末梢性感覚ニューロパチー発症率の増加がみられた。

¹⁴ 卵胞刺激ホルモン (FSH) 上昇 ($\geq 30\text{mIU/mL}$) を伴う 3 ヶ月以上の無月経と定義される卵巣障害は、術後のベバシズマブと mFOLFOX を受けた患者において mFOLFOX 単剤群と比較し増加した (34% vs 2%)。ベバシズマブの投与中止後、22%の女性において月経の回復および FSH レベル $< 30\text{mIU/mL}$ が認められた。ベバシズマブによる妊孕性への長期的な影響は不明である。

¹⁵ 動脈血栓塞栓症には、内臓動脈虚血、末梢動脈虚血、心臓発作、および脳卒中を含む。

ベバシズマブ (rhuMAb VEGF) との関連は未だ不明だが、ベバシズマブ (rhuMAb VEGF) について報告されたその他の有害事象抜粋：

血液およびリンパ系障害 — 血液およびリンパ系障害、その他 (特発性血小板減少性紫斑病)；骨髓細胞減少；播種性血管内凝固；溶血

心臓障害 — 完全房室ブロック；第一度房室ブロック；心停止；心筋炎；心嚢液貯留；拘束性心筋症；右室機能不全；

耳および迷路障害 — 耳および迷路障害、その他 (鼓膜穿孔)；聴覚障害；耳鳴；回転性めまい

内分泌障害 — 甲状腺機能亢進症；甲状腺機能低下症

眼障害 — 霧視；白内障；眼乾燥；外眼筋不全麻痺；眼障害、その他 (盲目)；眼障害、その他 (結膜出血)；眼障害、その他 (角膜上皮欠損)；眼障害、その他 (浮遊物)；眼障害、その他 (虚血型網膜中心静脈閉塞症)；眼障害、その他 (黄斑ひだ)；眼障害、その他 (一過性眼圧上昇 $\geq 30\text{mmHg}$)；眼障害、その他 (硝子体出血)；眼痛；角膜炎；視神経障害；羞明；網膜剥離；網膜裂孔；網膜症；流涙

胃腸障害 — 腹水；口唇炎；結腸狭窄；口内乾燥；嚥下障害；腸炎；食道痛；食道狭窄；鼓腸；胃腸障害、その他 (腹膜炎)；口腔内痛；脾炎；直腸炎；直腸粘膜炎；直腸狭窄；盲腸炎

全身障害および投与部位の状態 — 死亡 NOS；顔面浮腫；四肢浮腫；体幹浮腫；顔面痛；発熱；インフルエンザ様症状；歩行障害；注射部位反応；限局性浮腫；多臓器不全；突然死 NOS

肝胆道系障害 — 胆嚢炎；胆嚢壊死；胆嚢閉塞；肝不全；肝壊死

感染症および寄生虫症—感染症および寄生虫症、その他 (無菌性髄膜炎)

傷害、中毒および処置合併症 — 動脈損傷；挫傷；熱傷；放射線性皮膚炎；骨折

臨床検査 — 活性化部分トロンボプラスチン時間延長；血中抗利尿ホルモン検査異常；CD4 リンパ球減少；CPK 増加；一酸化炭素拡散能減少；心電図 QT 補正間隔延長；努力呼気量減少；GGT 増加；INR 増加；リパーゼ増加；リンパ球数減少；血清アミラーゼ増加；体重増加

代謝および栄養障害— アシドーシス；高カルシウム血症；高血糖；高カリウム血症；高マグネシウム血症；高ナトリウム血症；高トリグリセリド血症；高尿酸血症；低アルブミン血症；低カルシウム血症；低カリウム血症；低マグネシウム血症；低ナトリウム血症；低リン酸血症

筋骨格系および結合組織障害 — 関節炎；背部痛；骨痛；胸壁痛；深部結合組織線維化；全身筋力低下；頭部軟部組織壊死；関節滲出液；下肢筋力低下；上肢筋力低下；筋骨格系およ

び結合組織障害、その他（無腐性骨壊死）；筋骨格系および結合組織障害、その他（重症筋無力症）；筋骨格系および結合組織障害、その他（リウマチ性多発筋痛）；頸部痛；四肢痛；骨盤軟部組織壊死；下肢軟部組織壊死

良性、悪性および詳細不明の新生物（嚢胞およびポリープを含む） — 腫瘍疼痛

神経系障害 — くも膜炎；運動失調；中枢神経系壊死；脳脊髄液漏；認知障害；意識レベルの低下；異常感覚；味覚異常；不全失語症；脳症；錐体外路障害；顔面神経障害；水頭症；白質脳症；記憶障害；神経系障害、その他（頭蓋内圧上昇）；錯感覚；末梢性運動ニューロパチー；錐体路症候群；痙攣発作；傾眠；振戦；血管迷走神経性反応

精神障害 — 激越；不安；錯乱；うつ病；不眠症；リビドー減退；精神病

腎および尿路障害 — 膀胱痙攣；慢性腎臓病；非感染性膀胱炎；腎および尿路障害、その他（排尿困難）；腎および尿路障害、その他（尿管結石症）；腎出血；頻尿；尿失禁；尿閉；尿路閉塞；尿路痛

生殖系および乳房障害 — 乳房痛；勃起不全；不規則月経；骨盤痛；膣分泌物

呼吸器、胸郭および縦隔障害 — 成人呼吸窮迫症候群；無気肺；低酸素症；鼻閉；肺線維症；肺高血圧症；呼吸不全；呼吸器、胸郭および縦隔障害、その他（鼻乾燥）；呼吸器、胸郭および縦隔障害、その他（肺梗塞）

皮膚および皮下組織障害 — 脱毛症；皮膚乾燥；多汗症；爪脱落；皮膚疼痛；手掌・足底発赤知覚不全症候群；光線過敏症；紫斑；ざ瘡様皮疹；皮膚および皮下組織障害、その他（糖尿病性足部潰瘍）；皮膚および皮下組織障害、その他（皮膚の異常/褥瘡性潰瘍）；皮膚色素過剰；皮膚硬結；皮膚潰瘍形成；スティーブンス・ジョンソン症候群

血管障害 — 潮紅；ほてり；低血圧；リンパ嚢腫；静脈炎；血管炎

注：ベバシズマブ（rhMAb VEGF）を他剤と併用投与すると、現在まで知られている他剤による有害事象を悪化させる可能性がある。あるいは、他剤との併用療法では認められなかった有害事象が発生する可能性がある。

4.37 ベバシズマブの一般的な有害事象

ベバシズマブ単剤または他の化学療法との併用療法の臨床試験における、重症度に関わらず最も一般的な有害事象には、無力症、疼痛、頭痛、高血圧、下痢、口内炎、便秘、鼻出血、呼吸困難、皮膚炎、蛋白尿などがある。Grade3-4の有害事象で最も多くみられるのは無力症、疼痛、高血圧、下痢ならびに白血球減少である。最も重篤な有害事象としては、生命に関わる、または致命的な出血や動脈血栓塞栓症、消化管穿孔ならびに創離開がある。これらの疾患はさほど多くはないが、プラセボ群や化学療法のコントロール群と比べて、発症すると速やかに進行する。

ベバシズマブの主な有害事象を以下に記述する。総括的な主な有害事象のリストであり、潜在的なリスク（CAEPR）がNCI-CTC v3.0で、これに記述されている。研究者向けのパンフレットとFDAに参考文献を添付する。

(www.fda.gov/cder/foi/label/2004/1250851bl.pdf)

輸注反応：ベバシズマブの輸注反応は稀(<3%)であり、重症例は少ない(0.2%)。投与に伴って起こる反応としては発赤、じん麻疹、発熱、硬直、高血圧、低血圧、喘鳴または低酸素があげられる。現在のところ、重症輸注反応が起こった被験者に対する、ベバシズマブによる再投与の安全性に関する情報は、十分に得られていない。

高血圧：高血圧はベバシズマブ投与中の被験者では高頻度にみられ、複数の試験を通して、20-30%の発現率であった。降圧薬の開始または増量が必要になる可能性があるが、ほとんどの場合、薬剤の定期的経口投与でコントロール可能である。しかしながら、高血圧による脳疾患や心臓血管系の後遺症といった重症例の発症が稀に報告されている。ベバシズマブ投与

中は頻回に血圧測定をすべきであり、血圧コントロールの目安は一般的な治療に準ずることとする。ベバシズマブの使用はコントロール不能の高血圧患者には避けるべきである。

蛋白尿：蛋白尿はこれまでのところ、すべてのベバシズマブの試験においてみられており、重症度に関しては、無症候性の尿蛋白上昇（発生率は約 20%）から、まれにネフローゼ症候群(0.5%)まで様々である。2 症例の腎生検による病理組織所見は増殖性の腎糸球体腎炎であった。NCI-CTCAE の grade3 の蛋白尿 (>3.5mg/24 時間尿) はまれであるが、進行腎細胞癌患者ではその危険性はより高くなる。腎細胞癌に対する第Ⅱ相のランダム化Ⅱ相試験において、登録した一部の被験者に対し、24 時間尿を回収したところ、10mg/kg 群 (37 症例中) の 4 症例、3mg/kg 群 (35 症例中) の 2 症例に grade3 蛋白尿が見つかり、placebo 群 (38 症例) にはみられなかった。中等度または重度の蛋白尿を示す患者へのベバシズマブの継続の安全性については十分には検証されていない。

出血：ベバシズマブ治療によって出血の発生率は増加する。鼻出血が一般的であり、20-40%の患者にみられるが、多くは軽症で治療を要することは希である。生命を脅かすような致命的な出血も観察されており、肺出血や中枢神経系出血、消化管出血も含まれる。肺小細胞癌の第Ⅱ相試験では、ベバシズマブと併用化学療法によって、生命に関わる咯血・吐血が 66 症例中 6 例で報告され、そのうち 4 例は死亡している⁹⁷⁾。進行大腸がんの、第Ⅲ相試験では、消化管出血（すべての Grade を含む）の割合は IFL 群で 6%であったのに対して、IFL/ベバシズマブ群は 24%であった。中でも grade3-4 の消化管出血は、IFL/ベバシズマブ群は 3.1%、IFL 群は 2.5%であった。重症の消化管出血も、膵臓癌患者や静脈瘤患者へのベバシズマブ投与試験で観察されている。

動脈血栓塞栓症：動脈血栓塞栓症の発症の危険性がベバシズマブ治療によって増加し、それには脳梗塞、一過性脳虚血発作 (TIA)、心筋梗塞や他の末梢または腸管の動脈塞栓も含まれる。大腸癌 (AVF2107) で行われた試験では、IFL/ベバシズマブ群では 3%であったのに対して、IFL/プラセボ群での動脈血栓塞栓症の発現率は 1%であった。5 つのランダム化試験を集積し解析を行ったところ、その発現頻度は 2 倍であった (4.4% vs. 1.9%)。年齢や動脈虚血疾患の既往などの、患者の背景情報となる、ある特徴的な事項が、より危険をもたらすものと思われる⁹⁸⁾。ベバシズマブと併用化学療法の治療を行った 65 歳以上の患者の、動脈血栓塞栓症発現の割合はおよそ 8.5%であった。

消化管穿孔/瘻孔：消化管穿孔は稀であるが、ベバシズマブを含む治療によりその割合は増加した。それらの多くは外科的治療を必要とし、時に致死的となる。大腸癌での第Ⅲ相試験 (AVF2107) では、腸管穿孔は IFL のみの群では 0.3%であったのに対して、IFL/ベバシズマブ群では 2%であり、5-FU/ベバシズマブ群では 4%であった。消化管穿孔は胃・食道癌、膵臓癌、卵巣癌または憩室炎や胃潰瘍といった消化管疾患を合併している患者での発現が報告されている。ベバシズマブ投与を行っている患者において腹痛や原因不明の発熱、直腸・腹腔内膿瘍がみられる時は、消化管穿孔を鑑別診断として考慮するべきである。

創傷治癒合併症：ウサギの実験ではベバシズマブは創傷治癒を遅延させており、患者においても創傷治癒を阻害または遅延させる可能性がある。腸管吻合部の離開や皮膚縫合部の離開がこれまでのベバシズマブの臨床試験において報告されている。創傷治癒障害の危険性を回避するために必要な、手術とベバシズマブ開始までの適切な間隔は未だ定まっていない。しかしながら、ベバシズマブに関するすべての臨床試験において、先行の主たる手術から最低 28 日間が必要であるとしている。進行性大腸癌の臨床試験の経験では、手術から 29-50 日後に投与開始することが創傷治癒の発生率の著明な低下と関連があると考えられる。ベバシズマブの中止と次の予定手術との適切な間隔もまた定まっていない。大腸癌の試験では、IFL/ベバシズマブ群のうち 40 人、IFL/プラセボ群で 25 人の患者が試験期間中に手術を行った。そのうち、IFL/ベバシズマブ群には術後出血または創部合併症が 40 人中 4 人と有意にみられた。IFL/プラセボ群では 25 人中一人も起こらなかった。待機手術の時期の決定の際はベバシズマ

ブの半減期を考慮するべきである（平均 21 日、range は 11-50 日）。

うっ血性心不全: 左心室機能障害の危険性はアントラサイクリン系薬剤の治療の既往がある患者や、併用投与を行う患者において増加することがある。転移性乳癌の第Ⅲ相臨床試験（AVF2119g）ではすべての患者にアントラサイクリン系薬剤の治療歴があり、うっ血性心不全（CHF）や心筋症の発症は capecitabine 単剤群が 2 症例(1%)であったのに対してベバシズマブ/capecitabine 群で 7 症例(3%)にみられたと報告されている。大腸癌でのベバシズマブの IFL または 5-FU との併用試験ではうっ血性心不全（CHF）の発症の増加はみられなかった。

静脈血栓症: 静脈血栓塞栓症の発生がベバシズマブの試験において報告されており、これには下肢静脈血栓症（DVT）や肺塞栓、まれに腸間膜や門脈血栓症が含まれる。IFL とベバシズマブ（5mg/kg, q2w）の第Ⅲ相試験では Grade3-4 のすべての静脈血栓塞栓症は 2 つの群で差はなかった（15.1 vs. 13.6%）。

受精と妊娠: 受精と妊娠に関するベバシズマブの急性または長期的な影響についての臨床データは無い。しかしながら、ベバシズマブは催奇形性と胎児発育に対する有害性が動物実験において知られている。さらに、ベバシズマブは体部の黄体期発育と内膜増殖を変化させる可能性があり、それによって受精に対して障害作用を示すと考えられる。IgG1 のように母乳中にも分泌される可能性がある。従って、生殖年齢の男性と女性はベバシズマブ治療試験中に適切な避妊法を行わなければならないし、女性は授乳を避けるべきである。ベバシズマブ終了後のそれらの予防措置の期間は半減期（平均 21 日、range は 11-50 日）を考慮する必要がある。

免疫原性: 治療用たんぱく質と同様にベバシズマブに対する免疫抗原性を示す可能性がある。最近の、限定的な感受性内での分析では、およそ 500 人のベバシズマブ治療患者のなかには高濃度のヒト抗ベバシズマブ抗体は検出されなかった。

可逆性後白質脳症症候群（RPLS）または類似の白質脳症症候群: RPLS/PRES は、白質の血管原性浮腫と関連する臨床症候群であり、ベバシズマブの投与と関連して稀に報告されている（1%未満）。臨床所見として、精神状態変化、痙攣および皮質盲などがみられる。診断には MRI 検査が必要であり、典型的な所見として後頭頂葉および後頭葉の白質の血管原性浮腫がみられ、頻度は低いが前頭葉および灰白質にも認められる。ベバシズマブに関連する RPLS では、全症例ではないが一部で軽度または重度の血圧上昇がみられている。原因不明の精神状態変化、視覚障害、痙攣または他の中枢神経系所見を呈する患者では、RPLS/PRES の鑑別診断を行わなければならない。MRI が診断の鍵である。この症候群は可逆性であるが、不可逆的な組織損傷を防ぐには、血圧コントロールおよび薬剤の投与中止など原因の是正が重要である。（06/22/09）

好中球減少症: ベバシズマブを化学療法と併用した場合、化学療法単独に比べて好中球減少症のリスクが上昇した。大腸癌を対象に IFL をベバシズマブの併用下および非併用下で検討した第Ⅲ相試験では、Grade 3~4 の好中球減少症がベバシズマブ+IFL 群では 21% でみられたのに対し、IFL 群では 14% であった（Grade 4 の好中球減少症は 3% vs 2%）。NSCLC を対象にカルボプラチンおよびパクリタキセルをベバシズマブの併用下および非併用下で検討した第Ⅲ相試験では、ベバシズマブ併用群で Grade 4 の好中球減少症（27% vs 17%）、発熱性好中球減少症（5.4% vs 1.8%）の発現率が上昇し、好中球減少による感染リスクが上昇して（4.4% vs 2.0%）、ベバシズマブ+化学療法群では 3 例で致死的であったのに対し、化学療法による対照群では 0 例であった。（06/22/09）

4.38 薬剤の注文および薬剤の数量管理（08/04/08）

NCI が供給する薬剤は、各参加施設の試験責任医師（または任命された代理人）が要請する。Pharmaceutical Management Branch (PMB) の方針として、薬剤は患者が治療を受ける施設に直接発送する。PMB は、施設間の薬剤移送を許可しない (PMB から事前に承認を受けた場合を除く)。CTEP が供給するすべての試験薬の注文で、CTEP が割り当てたプロトコル番号を使用すること。各参加施設の試験担当医師を登録するには、毎年、FDA Form 1572 (研究者宣言書、Statement of Investigator)、履歴書 (Curriculum Vitae)、Supplemental Investigator Data Form (IDF) および Financial Disclosure Form (FDF) を CTEP、DCTD に提出しなければならない。一施設で複数の試験担当医師が参加する場合、CTEP が試験のため供給する試験薬は、当該施設の試験責任医師 1 名の名前で注文すること。

- 4.39 薬剤は、Clinical Drug Request (NIH-986) に記入して、Drug Management and Authorization Section, PMB, DCTD, NCI, 9000 Rockville Pike, EPN Room 7149, Bethesda, MD 20892-7422 に郵送するか、(301) 480-4612 にファックスを送信して要請してもよい。質問は、(301) 496-5725 まで電話すること。

薬剤在庫記録 – 試験担当医師またはその任命を受けた担当者は、DCTD から受領した全薬剤の在庫および処分について、NCI Drug Accountability Record (DAR) Form に注意深く記録して保管すること。(NCI Investigator's Handbook for Procedures for Drug Accountability and Storage を参照。) (6/22/09)

4.4 ドセタキセル (Taxotere® RP-56976, NSC #628503)

- 4.41 構成：ドセタキセルは無菌、発熱性物質を含まない、疎水性の粘稠性のある溶液として、20mg/0.5ml または 80mg/2ml のビンで供給されている。1ml 中に 40mg のドセタキセル (anhydrous) と 1,040mg のポリソルベート 80 を含む。
- 4.42 ドセタキセルは使用前に溶解する必要がある。無菌、発熱性物質を含まない、単量の希釈液はこのために使用する。ドセタキセルの希釈液は 13% (w/w) のエタノール水溶液であり、これをバイアル内に注入する。
- 4.43 保管：未開封のドセタキセルバイアルは 2~25°C の間での保管で、箱に表示された日までは安定している。遮光が必要である。
- 4.44 調合：ドセタキセルは添付されている希釈液と混合し (最終濃度は 10mg/ml)、使用前にさらに希釈しなければならない。ドセタキセルは輸液の際、0.9% NaCl (USP)、あるいは 5% グルコース (USP) の注入にて溶解し、最終濃度を 0.3 から 0.74ml/mL とすること。輸液に溶解したドセタキセルは 4 時間以内に使用すること (輸液時間を含める)。

注意：PVC バッグあるいは輸液セットによると思われる可塑性剤 DEHP の患者への曝露を最小限にするために、この最終ドセタキセル希釈はボトル (ガラス、ポリプロピレン) またはプラスチックのバッグ (ポリプロピレン、ポリオレフィン) を使用し、ポリエチレンで内張りされた輸液セットを用いて投与すること。

体液貯留の発生と重症度、また過敏反応の重症度を減少するため、すべての患者に対してドセタキセル投与 1 日目から開始し、3 日間の経口ステロイド剤を前投与すること。

- 4.45 副作用：最新の完全な情報に関しては、添付文書を参照のこと。
- 4.46 提供者：商品はアベンティスより入手可能である。追加情報は、American Hospital Formulary Service Drug Information guide、Facts and Comparisons または添付文書を参照のこと。

4.5 ゲムシタビン (10/01/12)

- 4.51 製剤組成：ゲムシタビンは滅菌済みの凍結乾燥粉末として供給されており、1 バイアルあたり 200 mg または 1 g のゲムシタビン塩酸塩（遊離塩基として記載）、マンニトール、酢酸ナトリウムを含有する。
- 4.52 ゲムシタビンは使用前に溶解する必要がある。凍結乾燥粉末は、200 mg、および 1 g 入りのバイアルあたりゲムシタビン 10 mg/mL または 40 mg/mL 以下の含有量となるよう生理食塩水に溶解して用いる。
- 4.53 保管：未開封のゲムシタビンバイアルは 2～25℃の間での保管で、箱に表示された日までは安定している。一度薬剤が溶解された場合、管理された室温（20～25℃の間）で保管し、24 時間以内に使用する。
- 4.54 調製：適切な用量の薬剤は調製したまま投与するか、もしくは、追加の生理食塩水 100 mL で希釈する。一度薬剤が溶解された場合、管理された室温（20～25℃の間）で保管し、24 時間以内に使用する。
- 4.55 投与：ゲムシタビンは 1 時間以上かけて点滴注射する。
- 4.56 副作用：最新の完全な情報に関しては、添付文書を参照のこと。
- 4.57 提供者：商品はイーライリリーより入手可能である。追加情報は、American Hospital Formulary Service Drug Information guide、Facts and Comparisons または添付文書を参照のこと。
- 4.6 病理学的必要条件（6/22/09）
- 4.61 適格患者：現時点で再発した上皮性卵巣癌、原発性腹膜癌または卵管癌の組織学的診断を受けている患者であること。組織学的に上皮性細胞型が次に該当する患者と適格とする：漿液性腺癌、類内膜腺癌、粘液性腺癌、未分化癌、明細胞腺癌、混合型上皮性悪性腫瘍、移行上皮癌、悪性ブレンナー腫瘍または他に特定されていない腺癌（N.O.S.）。
- 4.62 不適格患者：上皮性卵巣癌、原発性腹膜癌または卵管癌以外の婦人科悪性腫瘍のある患者。
- 4.63 必要事項および指示：GOG Pathology Committee による中央判定でプロトコルの適格規準を満たしているかどうかを確認するため、染色した病理プレパラートが必要である。染色病理プレパラート、病理報告書および書式に関する具体的必要事項および指示については、Section 7.2 および 10.2 を参照のこと。

5.0 治療計画および登録とランダムマイゼーション

患者の組み入れを受け入れる前に、署名された CTSU IRB Certification Form および CTSU IRB/Regulatory Approval Transmittal Sheet (www.ctsu.org からダウンロード可能) が CTSU Regulatory Office によって受領されていなければならない。これらの書式はファックスで送信するか、以下の住所宛てに送付する。

CTSU Regulatory Office
Coalition of National Cancer Cooperative Groups
1818 Market Street, Suite 1100
Philadelphia, PA 19103
1-888-823-5923
FAX 215-569-0206

5.1 患者の組み入れおよび登録 (09/29/14)

すべての実施医療機関の担当者は OPEN システムを使用し、本試験に患者を登録する。OPEN システムには GOG ウェブメニューページで OPEN のリンクをクリックするとアクセスできる。

実施医療機関の担当者は OPEN システムにアクセスする前に以下の項目を確認すること：

- ・ プロトコルに記載されているすべての適格規準を満たしていることが規定の期間内に確認されていること。実施医療機関の担当者は適格性を確認するツールとして GOG ウェブサイトにある登録フォームを利用すること。
- ・ 適切な同意説明文書および HIPAA の許可書（該当する場合）に署名していること。

OPEN システムへのアクセス要件：

- ・ 実施医療機関の担当者は、CTEP に登録され、有効な CTEP-IAM のアカウントを持っていること。CTEP-IAM のアカウントは CTSU メンバー向けのウェブサイトで使用されるアカウント（ユーザーID 及びパスワード）と同一である。
- ・ 患者を登録するためには、実施医療機関の担当者は GOG または CTSU のロスターに ‘Registrar’ としての役割を割り当てられていなければならない。
- ・ 患者を登録するためには、参加する試験グループ（ただし、リードグループ）のロスターに ‘Registrar’ と同等な役割を持っていなければならない。役割の割り当てについては所属グループが行う。

注意：OPEN システムは登録および治療の情報についてプリント可能な確認画面を医療機関に提供する。記録のために確認ページをプリントしておくこと。

使用についての詳細は CTSU ウェブページの OPEN タブまたは OPEN URL 内に掲載されている。その他の質問については、CTSU Help Desk 1-888-823-5923 または ctscontact@westat.com へ連絡すること。

5.2 治療計画 (06/22/09)

- 5.21 適格規準を満たした患者について、まず、本試験で手術に割り付けるかどうかを考慮する。二次的腫瘍減量手術が適切かどうかは、個々の患者の担当医が判断する。二次的腫瘍減量手

術の候補となるかどうかを評価する上で考慮する事項に関するガイドラインは Section 5.211 に記載する。患者が適切な手術候補と考えられる場合は、Section 5.22 に記載した通り割り付ける。

(以下の二文は 8/28/2011 以降の登録患者には適用されない。) :患者が適切な手術候補と考えられない場合は、Section 5.23 に記載した化学療法群に割り付けることができる。手術に割り付けた患者も、同時に化学療法に割り付ける。(08/29/11) (12/19/11)

5.211 二次的腫瘍減量手術に関するガイドライン：二次的腫瘍減量手術の目的は、すべての可視病変を完全に切除することである。個々の適格規準を全体的に示すことはできないが、手術で対応できない再発病変を有する患者を手術に割り付けてはならない。一般に、癌性腹膜炎、腹水のいずれか、または両方がある患者は、病変の広汎な分布によって完全に腫瘍を減量できないのが通常であり、手術候補になりにくい。同様に、実質臓器（例：肺、肝、膵臓、腎、骨など）に病変がある患者も、術前評価で切除不能と思われた場合は候補になりにくい。候補資格の評価は、身体所見（Physical Exam）、臨床検査および画像検査（MRI、PET/CT、CT）によって行う。無治療期間が長い患者は（術前に測定した腫瘍容積の拡大がわずかであるという特徴をもつため）、短い患者より手術候補になりやすいと認識されているが、本試験の手術では、この群に登録した全患者で手術による完全切除（可視残存病変がない）を原則とする。

5.22 ランダム化 I : **手術**: 本試験で手術群に組み入れた患者は、登録から 4 週間以内に、Appendix II に概略を示した通り開腹手術による腫瘍減量手術を受ける。手術後は最長 6 週間の回復期間後に化学療法を受ける。術後 6 週間以内に化学療法を開始できない場合には、あらかじめスタディチェアに相談が必要である。(6/22/09) (03/15/10)

5.23 ランダム化 II : **化学療法** (12/6/2007 から 8/28/2011 の間に本試験に症例登録された患者は、以下の 4 つの治療群にランダム化割付がされた。8/29/2011 以降は、すべての患者が手術適応である必要があり、手術に関するランダム化割付のみが実施される。後者の患者への全身治療は、パクリタキセル+カルボプラチン (I および III 群)、またはゲムシタビン+カルボプラチン (V および VII 群) またはパクリタキセル+カルボプラチン+ベバシズマブ (II および IV 群)、またはゲムシタビン+カルボプラチン+ベバシズマブ (VI および VIII 群) のいずれかから試験への登録前に選択・決定される。(08/29/11) (12/19/11) (10/01/12)

患者は以下のいずれかの全身治療を選択する：

- a) カルボプラチン+パクリタキセルまたはゲムシタビン または
- b) カルボプラチン+パクリタキセルまたはゲムシタビン+ベバシズマブ

5.231 治療：(06/22/09) (10/01/12)

群	手術	化学療法*	投与スケジュール	維持療法
I	施行しない	パクリタキセル 175 mg/m ² ** カルボプラチン AUC 5	21 日毎 (Section 5.24)	なし

II	施行しない	パクリタキセル 175 mg/m ² ** ベバシズマブ 15 mg/kg カルボプラチン AUC 5	21 日毎 (Section 5.25)	進行するか、毒性により それ以降の治療が不可能 となるまでベバシズマブ 15 mg/kg を 21 日毎
V	施行しない	ゲムシタビン 1000 mg/m ² (day1 および day8) カルボプラチン AUC 4(day1)	21 日毎 (Section 5.24)	なし
VI	施行しない	ゲムシタビン 1000 mg/m ² (day1 および day8) ベバシズマブ 15 mg/kg カルボプラチン AUC 4(day1)	21 日毎 (Section 5.25)	進行するか、毒性により それ以降の治療が不可能 となるまでベバシズマブ 15 mg/kg を 21 日毎
III	施行する	パクリタキセル 175 mg/m ² ** カルボプラチン AUC 5	21 日毎 (Section 5.24)	なし
IV	施行する	パクリタキセル 175 mg/m ² ** ベバシズマブ 15 mg/kg カルボプラチン AUC 5	21 日毎 (Section 5.25)	進行するか、毒性により それ以降の治療が不可能 となるまでベバシズマブ 15 mg/kg を 21 日毎
VII	施行する	ゲムシタビン 1000 mg/m ² (day1 および day8) カルボプラチン AUC 4(day1)	21 日毎 (Section 5.24)	なし
VIII	施行する	ゲムシタビン 1000 mg/m ² (day1 および day8) ベバシズマブ 15 mg/kg カルボプラチン AUC 4(day1)	21 日毎 (Section 5.25)	進行するか、毒性により それ以降の治療が不可能 となるまでベバシズマブ 15 mg/kg を 21 日毎

*別に指定がない限り、いずれの化学療法も投与日は第1日とする。腫瘍減量手術に割り付けた患者では、ベバシズマブは治療の2サイクル目から開始する。

**注意:パクリタキセルの代わりにドセタキセル 75 mg/m²を1時間かけて静脈内投与してもよい (Section 5.233 および 6.161 参照)。

5.232 疾患進行するか有害事象によりそれ以降の治療が不可能となるまで、維持療法を継続する。

5.233 薬剤投与の順序および時期：(08/04/08) (03/15/10) (08/29/11) (12/19/11)
(10/01/12)

- パクリタキセルは3時間かけて点滴する。(パクリタキセルをドセタキセルで代用しなければならない場合の注意：ドセタキセルは、開始用量 75 mg/m²を1時間かけて点滴静注する。Section 6.161 および 6.167 参照。)
- ベバシズマブは、パクリタキセルの投与後に短時間で点滴静注する。ベバシズマブの投与中は、アナフィラキシー反応が生じないかどうかを観察する。初回投与時は 90±15 分かけて投与する。有害反応（発熱、悪寒を含む）が起きなければ、2 回目は 60±10 分以上かけて投与する。2 回目の投与後に有害反応が起きなければ、それ以降はすべて 30 分以上で投与